時事新報定價
時事新報ハ一年三百六十五日一日モ休刊セズ其代價逓送料廣告料ハ左ノ如シ
一枚二錢○一個月前金五十錢○三個月前金一圓五十錢○六個月前金三圓○一箇年前金六圓
○時事新報社ヨリ直接ニ郵便ニテ逓送スルモノニ限リ右定價ノ外ニ一個月二十六錢ノ逓送料ヲ申受ク

時事新報廣告料前金

五號活字ニテ一行廿四字詰	一行ニ付一日限	一行ニ付二日以上六日迄	一行ニ付七日以上十五日迄	一行ニ付十六日以
自一行至十行	十錢	八錢	七錢二厘	六錢八厘
自十一行至卅行	九錢	七錢	六錢三厘	五錢九厘五毛
三十一行以上	八錢	六錢五厘	五錢八厘五毛	五錢五厘

時事新報

官邸廢す可し

四五年前までは各大臣中官邸に住居するものは外務大臣の外に其例少なかりしが近年來は官邸の建築頻々にして各省に官邸あらざるはなく其結構何れも壯大にして之に附屬する秘書官其他の住宅を合すれば儼然たる一個の省廳の如きものも少なからず蓋し官邸の設けたる内外の交際上に國の大臣たる位地面目を保つが爲め又一つには事務上の便宜の爲めに出でたるものならんなれども熟ら／＼今日の事態を察するに政費節減の急は既に目前に迫りたるのみならず施政の方便より立論するも政府の上流に位するものが既にその位階俸給の高く且つ豊なる上に車馬邸宅衣服などの美を飾りて徒らに世間羨望の府となるが如きは智者の謀略に不似合なれば自から俸給を辭して又政務に從事するなどは最も妙なれども若しも遽に然する能はざるの事情もあらば之は後日の談として先づ政費節減の一點より第一着手に官邸を廢するは差向きの一策なる可し大臣の身分には俸給祿位の其外に十分なる交際費等もあるよしあれば官邸なければとて内外の交際に差支ある可き筈もなく況んや事務の取扱上に於てをや官邸の有無は事務取扱の便否に關係ある可らず左れば斷然之れを廢することして扨從來幾多の官邸は無用のものとなりて諸處に宏大なる廢邸を現出するに至る可しと雖も無用決して無用ならず之を賣拂はんとすれば目下の時勢隨分所望の者もある可し又或は其廣大なるものは直に之を各省廳に代用するも可なり世人の知る如く政府にては先年來臨時建築局を設け數多の官吏を置き又は外國の技術家を雇入れ國會の議事堂を始め諸官衙の新築に從事する筈にて建築の設計をなし敷地を相定するなど今正にその計畫中のよしなれども我輩の所見にては當今の時勢に土木の沙汰は先づ以て無用となし諸官衙の新築は斷然見合せ(國會の議事堂も目下建築中なる假議事堂にて十分なる可し)廢官邸の適宜なるものを撰んで之を利用せんと欲する者なり諸省の役員とても今日の如き有樣にては非常の人數を要し隨て此人數を容るゝ爲めに廣き場所も入用なることならんなれども今後勉めて繁文を略き事務を省くの日には事に從ふの吏員も同時に大に減少して長官は自から省の樓上の一隅若しくは其附屬の家屋に住居して事務を聞くことゝもならば[illegible]の儀は申すまでもなく從前の如く本省と官邸若しくは官邸の間に車馬を走らし使丁を往復せしむる等の面倒もなくして事足る可し或は今の官邸は一私人の住居としては大に過れども省廳としては手狹なりと云はゞ其空地に聊か增築するも可ならん其費用の出處に就ても我輩聊か考案なきにあらず前に述べたる如く臨時建築局の工事を止め諸官衙の新築見合となるときは兼て相定し置きたる敷地も無用に歸す可ければ此地面の坪數を公賣に付しその代價を以て官邸增築の工費に充て決して不足を訴へざる可きは我輩の保證する所なり

左れば諸省の官邸を廢して或は賣拂ひ或は官衙に代用するの一事は自から今の經濟の得策なりと思へども人或は此策を悦ばず既成の官邸を其まゝ賣却するも是れまでの所費を償ふに足らずして巨萬の金を損し又これを官衙に代用せんとして增築などすれば却て更に金を費す可しなど說を作す者ある可し自から一說にして目下の錢の損益に就ては我輩も強ひて爭ふの意なしと雖も平生の素論に於て我輩は今の諸省の組織を大に縮小せんと欲する者なれば臨時の大建築を廢するは無論、幸に廣大なる官邸の不用物あれば轉じて之を利用せんとするの一策を献じたるのみ但し假令へ之を官衙に用ひざるも廢邸案は飽くまでも斷行を勸めざるを得ず從前の如く之を維持する爲めには多少の官費を要する其上に拜借人の生計より論ずるも居宅の不相應に壯麗なるが爲めに自然に日常の費用を增して私に却て困却する意味もある可し我輩の所見に從へば早晚大臣の俸給にも必ず大變動ある可しと信ずるが故に其生活法は今より省略の覺悟こそ肝要なれ然るに居宅の大なるに誘はれて省略の實施に窮するが如きは最も謂れなき次第なれば此點より觀ても廢邸の要用は明なる可し

官報

○歲計決算中の誤字　昨日の本欄に揭げたる明治十七年度歲計決算表中臨時歲出第四款第九項補助の下金の字を脫し同第五款銷却は銷却の誤なりと昨日の官報に是正せり

○廣嶋縣下奇病續報　廣嶋縣下高田郡吉田地方に於て發生せる奇病に關し同縣の電報を去る六日の本欄(翌七日の本紙に見ゆ)に揭載せしか今又同縣より左の報告あり

管內高田郡吉田村邊に於て頃日一種の奇病を發生せしとのみを流傳し尋て各地新聞紙上にも登載ありしか當時本縣に達せし報告に依れは同村元戶長某其他前後死亡する者は皆腦充血なりとの趣は過日電報を以て報告せしか爾後實地調查を遂けたる處果して左の如き病狀なり而して其人員も僅々二三人にして爾後一切同症の患者を發せさるに附き全く訛傳たるを知る

元戶長某病狀

四月十三日午後四時三十分頃の重きを覺え卒然として嘔吐を催し言語蹇澁數秒時にして昏迷を發し知覺運動の兩機を失し呼吸鼾聲を放ち終に同日午後十時四十分死歿す醫師之を腦出血と診斷せり

雜報

○第一師團衞生隊實地演習の模樣　去る十日午後二時頃なりき篠を衝て降る雨中に埼玉、神奈川兩縣の境なる武州御坐郡關村の東北より北多摩郡田無村の邊に當り突然小銃の音聞え兵士の往來頻りなりければ土地の人は何事の興りしならんと驚きしも漸くにして軍隊の演習ならんと推知せしが豈圖らんや死傷者と覺しく白木綿にて傷所を包み鮮血淋漓として見ゆるもの或は人肩に舁り或は擔送せられて關村の東端に來るもの陸續として絕えざりければ土人は更に再驚を喫しながら恐る／＼近附き見れば眞實の傷者にも非らざるが如し左れば其手當方の周到緻密なるを見れば又眞の傷者の如くにも思はれ不審に耐へざるまゝ傍に居合せし綿帽を冠たる人に尋ねしに是れぞ之れ今度東京にて募集したる第一師團衞生隊實地演習の最中なると判然したりさるにても初め遠方より鮮血淋漓として見えたるは何故ぞと見るに此假傷者を護送し來りたる兵士は皆左腕に於て白布に大なる赤色の十字形を印したるものを附したるが喫驚の際鮮血と見えたるなり尤も此赤十字形は將校以下皆な之を附着し居たるを見受けたり同日の演習は步兵第三聯隊と合したるものにて夕刻全く演習を終り翌十日も田無村近傍にて數十名の傷者の處置を演習して後三聯隊に分れ府中、八王寺、荻田等を經て東海道近傍に出で爰にて來る十四五兩日再び戰隊と合し演習を爲し歸京の筈なるが右衞生隊の人員は凡そ四百人計りなりと關村よりの通信

○埼玉教育會總會　埼玉縣教育會は設立以來既に七年の星霜を經るものゝ由なるが同會は去る十二日浦和師範學校內に於て總會を開けり當日東京より招待に應じ出向きしは文部次官辻新次文部省學務課員大日本教育會々員及時事新報社員小林梅四郞山名次郞等の諸氏二十餘名にて此等の人々は何れも午前十一時半上野發の汽車にて同地に赴き直に同會より用意の人力車にて師範學校に至り暫時休息の後同校長桐野弘氏の案內にて教場寢室浴場等を一覽し終つて生徒の自炊せる午餐の饗應あり其より又た校長の案內にて一同體操場に赴き兵式體操を一覽せし由なるが生徒は何れも活潑にて滿面勇氣を帶び其劍を肩にし喇叭の聲と共に運動する有樣は從來の學校生徒が單に學窓の下に苦學して形容枯槁風前の燈の如き觀あるものゝ比にあらずと云ふ聞く同校にては是まで兎角生徒に病人の多かりしが此兵式體操を始めてより殆んど病人無きに至れりと右體操を見終りて再び式場に歸れば會員無慮四百名既に席に列なり校長は會場の用意整ふ旨を告げ一同式場に臨席するや先づ奏樂あり次で會長吉田清英氏祝辭を朗讀し桐生氏之が答辭を述べ此間奏樂あり次に教諭某氏山名小林辻三氏の演說ありて午後五時半頃閉會し其より停車場の側なる教育會事務所に於て晚餐の饗應あり餘興として田原某氏の薩摩琵琶あり一同八時半の汽車にて歸路に就けり聞く此田原某氏は薩摩の人にて同縣師範學校にては此琵琶の悲壯慷慨にして大に志氣を勵ますの風あるを以て此人を同校の教員とし時々生徒をして之を聞かしむると云ふ目下同教育會は會員九百餘名にして雜誌を發兌し時々集會を催はし頗る盛なりと云ふ

○士官候補生の試驗　府下士官候補生の體格試驗は既に結了したるを以て更に去る十一日より士官學校に於て學術試驗を始めたりと

○合衆國、加奈陀同盟の日　昨年米國上院に於て合衆國と英領加奈陀との聯合論を主張し一時世論を動かしたるレパブリカン黨の名士シャーマン氏は去月十一日ピッツバーグ府にて或人に面會し加奈陀との聯合に付き意見を述べて云く此聯合問題に關する議論は未だ充分に發達せずと雖も聯合の傾向は次第に明白となれり抑も世間には余の議論を聞き合衆國が加奈陀を合併する樣に思ふ者なきにしもあらざれども余の意見は決して然らずして兩國同盟すべしと云ふにあり去れば合併と云はんより寧ろ同盟と云ふこそ適當なるべし元來兩國の同盟は避く可からざるが故に早晚合體するに相違なからんなれども其實を擧ぐるは吾々の時代にあらずして後世子孫の時代なるべし余の信ずる所にては若し加奈陀人民が同盟せんことを欲せば之を妨ぐるものなく同國は貿
合好き位地を占
を起すが如きよ

○生田秀氏　昨
麥酒釀造法研究
駐在西園寺公使
る獨逸聯邦バ
ステファンと稱
入り爾後勵精
を得同級生の首
卒業生を祝する
生總代として謝
共景況を記載し
んとて大に生田
學生は氏の爲め
は墺、佛、英等の
ルセーユ港出帆

○土子金四郎氏
氏は同校を辭し
留學の爲め去る
せしが歸國の後

○京都市　よ
下京區役所に於
安兵衞、二級に
下間庄右衞門の

○本鄕區公民會
一日午後より湯
開きたるに左の
田口卯吉、堀井
木滑次郎、長
永井碌夫、杉浦
又右の諸氏は本
務其他公民會
於て議員の改

○正副議長及議
金田歸逸、河野
衞、石渡正敏、
陽共二、小花作
伏治郎兵衞、
せり又去る十
爲せしに議長
田盛美の兩氏

○東京火災保
火災保險會社
田正介氏上任
負會社の事務
にも及ぼす積
火災保險を本

○日本織物會
にありて外國
綿絲、色染、整
り器械の運轉
三間の給水は
渡良瀨川の急
車力にて運轉
る仕掛にて考
學博士バルト
塲に迎へて實
りとの評を下

(米價)……
(米尺)……

○京濱鐵道　新橋發車時刻……
鐵發(上り)午前七時五分、八時四十五分、十時二十八分、午後二時五十五分、四時十五分、六時十五分、八時三十五分
○新橋靜岡間汽車時刻　新橋發午前六時、十時、午後一時……